

平成21年度 新入生合宿研修を開催しました

本学では、教員と学生及び学生相互の理解と交流の場とし、かつ、大学生としての自覚を持たせるとともに、本学の生活を充実させるための一助とすることを目的として新入生合宿研修を実施しています。

●平成21年度 新入生合宿研修実施一覧

	コース名	日 程	合宿の主な実施内容
学校教育教員養成課程	教育・発達基礎コース	4月11日	こども家庭相談センターの方を講師に招き、「福祉から見た子どもの発達について」をテーマに講演いただいた。また、4種類の集団ゲームで交流を深めた。
	言語・社会コース	4月25日・26日	明日香村を訪れ、郷土史家の方に明日香村を舞台にした「古代史」について講演いただき、その後、石舞台等でフィールドワークを行い現地で歴史を学んだ。また、俳句をつくり、句会を通して多面的な見方や考え方を学んだ。
	理数・生活科学コース	4月24日・25日	自己紹介及び、「4年後の自分」について3分間トークを行い親睦を深めた。また、キャンパスメンバーズ制度を利用し奈良国立博物館の平常展を観覧した。
	身体・表現コース	4月17日・18日	美術教育・保健体育専修は、若草山登頂、奈良国立博物館観覧及び奈良市内を散策。音楽教育専修は「大学生活で何を身に付けるか」についての研究員による公演及び「校則は必要か」をテーマにディベートを行った。
総合教育課程	文化財・書道芸術コース	4月25日・26日	1日目は、滋賀県立安土城考古博物館、ミホミュージアム及び酬恩寺を訪れ、歴史・考古・美術等を現地学んだ。2日目は古文化財科学・文化財造形専修は宿泊所近郊の寺院・古墳・史跡等を見学、書道芸術専修は大阪国際会議場で催されている「日本書道芸術院役員展」を鑑賞した。
	環境教育コース	4月11日・12日	福井県立恐竜博物館及び滋賀県長浜市黒壁スクエアを見学。地方都市再生の成功である長浜市の取り組みについてのレクチャーの後、街路を散策した。
	科学情報コース	4月18日・19日	上回生による履修やキャンパスライフ等に関するアドバイス及び相談会を実施。また、キャンパスメンバーズ制度を利用し、奈良国立博物館を見学した。

言語・社会コース感想文

「飛鳥時代から今への想い」

冷たい雨の中始まった合宿研修。バスの中で感じていた、不安や緊張は明日香村に着いて、少し和らいだ。山には若葉が茂り、雨にぬれて緑を一層輝かせていた。辺りはしんとし、聞こえてくるのは川の音、雨音だけだった。この、どこか懐かしく、自然を感じさせる村で、飛鳥時代の史跡、万葉の歌に触れ、色んな人に出会い、色んなことを学べた。その中でも、特に次の3つのことを学んだ。

・勝者側と敗者側の歴史があること

このことは、大化の改新のきっかけとなった乙巳の変を、日本書紀で読む講義の中で感じた。中大兄皇子らは、蘇我入鹿一族を滅ぼした。この事実、どれだけの人が関わって、苦しみ、迷い、あるいは喜びを感じたのだろうか。事実としては、中大兄皇子らが勝者側、蘇我氏一族は敗者側となった。しかし、そのことが良かったのかどうかは分からない。今まで、私は勝者側の方に良いイメージを抱きがちだった。それは間違いかもしれないと思った。実際中大兄皇子は、ライバルになりそうな人物を何人も殺害している。今までの歴史の授業で、敗者の歴史に触れることが少ないと言っておられた先生の言葉通り、勝者に偏った歴史を学んできたのかもしれないということが分かった。講義で学んだことをもとに、これからは、どちらの側の歴史も学び、歴史を深く見る姿勢を持ちたいと思う。



●ガイドの方による石舞台の説明

・想いを受け止め、伝えることの難しさ

研修中の句会で、それを特に感じた。自分で俳句を作るとき、自分の感じたことをまとめられず、字余りになったり、くどくなったりして、表現に迷った。自分の伝えたいことを簡潔に相手に伝えることは、とても大切なことだけど、なかなか難しい。また、優秀句の作者が、自身の句をコメントする場があったが、作者の想いとみんなの解釈が少し違うこともあった。俳句や、俳句でなくても、人それぞれ対象のもの何に重点を置くかは違う。そのことは当たり前だ。しかし、その当たり前から一歩出て、どんな人の立場にも立て、どんな人のことも理解できる、広い視点を持つことが大切なのだ、句会を通して学んだ。



●甘樫の丘にて国見の歌を朗誦

・この研修が、あらゆる人々に支えられていること

この研修を通して、たくさんの人に出会った。同じ班・コースの人、先生方はもちろん、祝戸荘の方、ガイドの方、運転手さんなど、この研修を支えてくれた人がいたから、この研修が成り立っているのだと、改めて実感した。今までの、遠足や修学旅行を「楽しむ」側から、「支える」側として考えてみると、一つ一つの行動への、例えば、次の観光場所へ子ども達を移動させる時など、気配りや注意が大切であることを学んだ。そして、そのことは、根気のいることだと思った。支えてくれた方々に感謝したい。

2日目のガイドの方の、「この出会いを一生大切にしたい」という言葉が心に残った。研修は終わったけど、『学び』はまだこれからも続いていく。研修で学んだことをきっかけに、知識だけでなく、様々なことを、この大学で学んでいきたい。 記事：畑中 歩(言語・社会コース1回生)